

橋本正展

はしもと

まさし

記憶に残るかたち
忘れられない風景

橋本正「土曜の朝」 | 油彩 | 91.0 x 45.5 cm

平成29年 9月23日(土)▼11月26日(日)

開館時間 8:30~17:00 ※入館は16:30まで

休館日 月曜日 ※月曜が祝日の場合その翌日

萬鉄五郎記念美術館



「1985年12月」1985年、油彩・画布 41.0×53.0cm



没後20年を迎え、大規模な回顧展となる本展では、橋本正の多様な表現世界の全貌を明らかにし、そこに裏打ちされた彼の造形思考をひも解きたいと思えます。

70年代に再び制作を開始した橋本は、以前の抽象表現は一変し、盛岡の中心部を横断する中津川を題材に独自視点で郷土の風景を描きはじめます。彼が描く盛岡風景に不思議な愛着が湧き、忘れられない景色となった方も少なくありません。抽象から具象表現へと舵を切った橋本ですが、彼のなかでは違いはなく、具象は自然を線と面に還元する抽象化であり、抽象もイメージを画面に具体化する作業で、いずれも「小宇宙の創造」であると語っています。

一九二六(大正15)年、盛岡に生まれた橋本正(一九九七、平成9)年没享年72)は、戦後シベリア抑留を経て岩手美術研究所に学び、自由美術協会展で入選を重ねます。その後、個展中心の活動にはいり、一九六二(昭和37)年、盛岡の若手画家たちのグループ「集団N39」に参加。接着剤のボンドを使って布を固めたアンフォルメルのおブジェの連作を発表し注目されます。しかし、同グループ解散後は制作から遠ざかることになります。



「中津川」1957年
油彩・画布、31.7×41.0cm



「作品I」1963年
ミクストメディア
91.8×59.5cm



「作品D」1960年
ミクストメディア
180.7×90.6cm



「作品J」1963年
ミクストメディア、92.0×92.0cm



「いのちの形象」1957年
油彩・画布、60.6×80.3cm



「樹木」1955年
油彩・画布、91.0×65.2cm

【主催】萬鉄五郎記念美術館

【後援】岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、河北新報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか、奥州エフエム、花巻ケーブルテレビ、えふむ花巻

萬鉄五郎記念美術館

入館料 一般 / 500(450)円 高校・学生 / 300(250)円 小・中学生 / 200(150)円 * () 内は20名以上の団体料金

〒028-0114 岩手県花巻市東町土沢5-135 TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405